

工学部バイオ化学工学科 3年) 休石悠人

派遣先大学：ラトビア大学

派遣期間：2016.3.10～2016.3.25 (16日間)

私はこの度、春季休暇を利用して学生大使派遣プログラムに参加し、ラトビア大学で2週間ほど現地の学生に日本語を教えながら交流を図ってきました。私は今回のプログラムへの参加で、人生で初めて海外生活を体験しました。

私がこのプログラムを知ったきっかけは、講義後の教室で周りの友人たちが話をしてたのを偶然耳にしたことでした。私は今まで何度か海外への語学留学や、国際交流のプログラムへ参加しようとしたことがありましたが、英語を介したコミュニケーションが苦手で、どうしても一歩踏み出す勇気がでませんでした。しかし、話をしてた友人の中に昨年このプログラムに参加した人がいて、「英語が話せなくても何とかなる。行けば絶対楽しい」と自分の経験を話して私の背中を押してくれました。私はそれを聞いて、自分がまとまった休みを取れるのは卒業研究に着手していない今だけだと思い、このプログラムへの参加を決意しました。

プログラム参加を決めるのと同時に、私は自分の中で目標を2つ作りました。1つは、ラトビアで多くの異文化を見聞して直接体験し、逆に日本文化をラトビアの学生に伝えて活発な異文化交流をすること。もう1つは、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとることでした。

私はこれが初めての海外滞在経験だったため、とにかく目に入るものの多くが新鮮でした。私は約2週間のほとんどをリガで過ごし、自分がイメージしていた中世ヨーロッパそのままのレンガの街並みを残す旧市街を散策して、旧市街にあるほとんどの教会や博物館を見学しました。また、休日には日本語クラスの学生がリガの外へと連れて行って来て、ラトビアの雄大な森林や海岸などを案内してくれました。旧市街の街並みも、美しい自然の風景も日本とは異なっていて、私は夢中でそれらを見学してきました。さらに、日常生活のあらゆる出来事が刺激的な経験となりました。例えば、スーパーでの買い物の仕方があったり、公共のマナーなどが日本とは全然違って驚きました。そして何より、街を歩けば感じる珍しいものを見る視線を受けて、「自分が外国人になる」という貴重な感覚を経験することができました。

ラトビアの文化を知る一方で、私も日本の文化を向こうの学生に紹介してきました。私は日本語クラスで日本語の文法や会話表現などを教える



と同時に、煎餅などの日本のお菓子を持って行ってみんなで食べたり、雑祭りや花見など

の日本文化を紹介する動画をスクリーンで見せて、日本のことを知ってもらえるような活動をしてきました。また、日本語クラスの外でも仲良くなった学生たちと文化や習慣について話をし、お互いに驚き合いました。例えば、ラトビアではサウナに男女の区別なく一緒に入ることもあると聞いて私は非常に驚きましたし、向こうの学生は日本の学校では生徒が自ら掃除をしたり、給食の配膳をすると聞くと驚きながらも素晴らしい習慣だと言ってくれました。私は異文化に触れることで、改めて日本の文化や習慣について考えることが非常に大切なことであると今回のプログラムを通して感じました。

ラトビアでの滞在の中で心残りだったことが1つあります。それは、英語で自分の考えを相手に分かりやすく伝えることが出来なかったことです。ラトビアで活動を始めたばかりの頃は、相手が自分に興味を持ち、知ろうとして質問してくれているのに、英語でしっかりと答えることが難しく、対等に会話するのではなく聞き役に回ってしまうことがどうしても多かったです。頭の中で言いたいことはたくさんあるのに、その多くを言葉に出せないことは非常にもどかしく感じました。それでも、せっかく自分で決めた目標でもあるし、何よりもっと仲良くなりたいという気持ちが強くあったので、少しずつ、2、3語だけでもいいから言葉を出すようにして、日本に帰る頃には積極的に会話ができるようになりました。始めからこのように出来なかったことが今でも本当に残念に思います。仲良くなりたい相手がいて初めて、試験のためではなく、気持ちを通じ合わせるために英語を話せるようになりたいと、自分が本気で英語を学ぶための理由が出来ました。

学生大使派遣プログラムへの参加を通して、自分が少し成長したように感じます。異文化に触れる事で日本文化の素晴らしさを改めて知ることが出来ましたし、英語が出来ないからと言って始めから遠ざけていた外国の方と話すようになり、自分から理解したいと思えるようになりました。また、向こうでは細々としたトラブルが起こることもあり、その都度臨機応変に対応する適応力が身に付いたと思います。このように成長する機会を用意してくださった山形大学・ラトビア大学の国際交流担当の方々、このプログラムのことを知らせて背中を押してくれた友人たちに感謝しています。自ら飛び込んでこのチャンスを活かしたことが非常に嬉しいです。

今後の展望として、在学中に再び国際交流プログラムに参加したいと考えています。次の機会までに英語をコツコツと勉強して、今回よりもっと多くの方々と知り合って仲良くなりたいと思います。

最後に、もしこの実施報告書を目にした方で、海外での活動に興味があるが一步踏み出せないという人がいたら、是非参加してみることを勧めます。非常に貴重な体験ができるし、何よりも楽しかったです。2週間では足りないくらい、可能ならば1カ月でも2カ月でもここにいたいと思えるような経験でした。

